

第2学年 国語科学習指導案

い組 男子 19名 女子 20名 計 39名
指 導 者 坂 本 敬

1 単 元 じゅんじょに気をつけてよもう

(教材「たんぼぼのちえ」光村2年上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第1学年「いろいろなくちばし」の学習で、問いと答えという文のまとまりを考えながら、大体的内容を読み取る能力を身に付けてきている。また、「ちがいをかんがえてよもう」の学習で、時間的順序について考えて読もうとする態度を身に付けてきている。また、読むことによって知った知識を相手に伝えたいという願いをもっている。

そこで、本単元では、順序を表す言葉に気を付けて、時間的な順序を考えながら、内容の大体を読み取る能力を身に付けさせたい。また、事象と理由という文としてのまとまりや内容について考えながら読もうとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「じゅんじょに気をつけてよもう」(教材「たんぼぼのちえ」)を設定した。

この学習は、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み取ったり、説明の順序に気を付けながら原因や理由をはっきりさせて表現したりしようとする「だいじなところに気をつけて読もう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「たんぼぼのちえ」は、たんぼぼの花が咲いてから綿毛が飛んでいくまでの過程を、新しい仲間を増やすための「ちえ」として時間的な順序に従って分かりやすく説明している説明文である。子どもたちにとって身近な存在であるたんぼぼを取り上げ、生物が生きていくための営みと種の保存のための本能について子どもたちに未知の事象を説明している本教材は、この期の子どもたちに適した教材である。また「二、三日たつと」「やがて」などの順序を表す言葉に即して、たんぼぼの生長の様子が書かれており、時間的な順序をとらえるのに適している。さらに、「それは～だからです。」という、理由を説明する文末表現も使われており、事象と理由を明確に区別し、それらに関係付けて読み取ることを学ぶのにも適した教材と言える。

そこで本単元では、「たんぼぼのちえ」とは何なのかを解き明かしていくこと読みの目的として読み進めていく。その際、時間的な順序を表す言葉に気を付けて、たんぼぼの生長の変化をとらえさせたり、「たんぼぼのちえ」を読むために事象と理由に関係付けさせたりすることが大切である。

具体的にはまず、身近な生き物について、自分が知っていることや不思議だと感じていることについて話し合わせる。また、目的意識をもって学習に取り組ませるために、自分たちが不思議だと感じている生き物について調べて自分たちも紙芝居を書くということを単元の目標として設定させる。

次に、「たんぼぼのちえ」を読み取るために、「～ます。」というたんぼぼの様子や「それは、～だからです。」「～のです。」という理由を表す文末表現に着目させることで、事象と理由を区別させ、内容の大体をとらえさせる。そして、順序を表す言葉に気を付けさせたり、時間的な順序を考えさせたりするために、学習したことを紙芝居の形式にまとめさせる。

さらに終末で学習を振り返らせる中で、子たちが日常生活の中で不思議に思う植物の生長について調べ、説明できるように、「○○○のちえ」という題の説明文を書かせていく。そして、それをみんなに紹介したり意見交換したりしながら、自然そのものへの興味・関心をさらに高めしていくことができるようにする。

これらの学習によって得られる能力や態度は、身近な生き物に興味をもち、接続語や文末表現に気を付けて、大事なところに気を付けながら文章を読もうとする態度へと結びついていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や教材に対してどのような興味・関心をもっているかについて調査した結果は次のとおりである。(数字は人数を表す。)

① たんぽぽについて知っていること (主なもの)	
・綿毛は風で飛ぶ(17) ・生長したら綿毛になる(11) ・綿毛は風で飛ばされ、発芽する(5) ・綿毛には種が付いている(3)	
② 「ちえ」という言葉の解釈	
・種子を風で飛ばすこと(13) ・頭で考えること(9) ・綿毛や種子のこと(3) ・花を咲かせること(2) ・無回答(12)	
③ 主な初発の感想 ※複数回答 (主なもの)	④ 事柄を順序よく読み取ること
・種子を風で飛ばして仲間を増やすことがすごい (14)	・できる (25) ・できない (14)
・なぜ倒れてもまた起き上がるのが不思議 (9)	⑤ 順序を表す言葉を使って表現すること
・たんぽぽにはさまざまな知恵があつてすごい (8)	
・なぜ雨の日に綿毛の落下傘がしぼむことが不思議 (7)	・できる (12) ・できない (27)
・なぜ綿毛ができるとせいを高くすることが不思議 (7)	⑥ 理由を表す文末表現を見つけること
・倒れるとなぜ黒っぽくなるのか不思議 (3)	
・晴れと雨の日でたんぽぽの様子が変わることを初めて知った(3)	
・たんぽぽの綿毛に種子が付いていることを初めて知った (2)	・できる (31) ・できない (8)
⑦ 難語句 ※複数回答	
・すぼむ (21) ・花のじく (19) ・しめりけ (14) ・ちえ (12) ・らっかさん (8)	
・ぐったり (3) ・しぼむ (2) ・ぐったり (2) ・えいよう (2)	
⑧ 「たんぽぽのちえ」学習後にしてみたい活動	
○○のちえ	調べる方法
・昆虫 (16) ・植物(13) ・動物(8) ・魚(2)	・家の人に聞く (13) ・図鑑(13) ・本 (11) ・インターネット(3)

子どもたちは、これまでの生活経験を通してたんぽぽについて高い興味・関心をもっている。しかし、たんぽぽの仕組みや知恵の不思議さに気付いている子どもは少ない。(①)ただ、「ちえ」についての解釈から子孫を残すための仕組みに気付いている子どもも多くいることが分かる。

(②)また、たんぽぽの生長や変化の様子を描写した文を基に、そこに隠された「ちえ」に問題意識をもっている子どもも多い。(③)しかし、順序に気を付けて読んだり、経験した事柄を、「はじめに」「つぎに」などの言葉を使って表現できる子どもは少ない。(④・⑤)これは、事象を説明したり、順序を表す言葉を意図的に使用したりする経験が少なかつたからだと考え。また、理由を表す文末表現「～からです。」を見つけることができない子どももいる。このような子どもは、「たんぽぽのちえ」がたんぽぽの様子とその理由から説明されている文章であることに気付いていない可能性が高いと考える。(⑥)また、「すぼむ」「花のじく」など、意味を知らない語句があることにより読み取りが難しくなっている子どももいるようである。(⑦)

教材「たんぽぽのちえ」を読んだ後の学習活動については、多様な表現欲求をもっており、詳しく調べるための方法についてももしっかり理解している。(⑧)

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、理由の述べ方に目を向けさせる働きかけを行い、時間的な順序に従って読むことの大切さに気付くよう、学習内容や指導方法を次のように工夫することが大切であると考え。

ア たんぽぽの不思議さへの関心を高めさせるために、生活科の「春のさんぽ」でたんぽぽを観察した共通体験を基に、不思議に思ったことを話し合わせる。また、たんぽぽ以外の生き物のちえに興味を持たせるために、教師が他の生き物についての説明した紙芝居を提示し、「○○のちえを調べて、みんなに知らせたい」という目的意識や相手意識をもたせる。

イ 順序を表す言葉を確かめながら事象とその原因を正しく読み取らせるために、紙芝居を作成し、並べ替える活動を設定し、文頭・文末表現の特徴や時間の経過を表す言葉の使い方の工夫が「たんぽぽのちえ」を適切に表現していることに気付かせる。

ウ 順序を表す言葉を学習し、使えるようになった効力感を味わわせるために、日常生活の中で不思議に思う植物のちえについて調べさせ、紙芝居を作成させ、発表を行わせる。その際、共通課題として作成した紙芝居「たんぽぽのちえ」との関連を十分に意識させる。

3 目 標

- (1) たんぽぽが生長するための「ちえ」やその理由に関心をもち、解決したい課題を確かめながら、事象の変化などについて説明した文章を進んで読もうとすることができる。
- (2) 時間的な順序に従って、事象の変化の説明と理由の説明を関連付けて読むことができる。
- (3) ア 時間的な順序に沿った事象の変化とその理由を考えながら、たんぽぽの「ちえ」について読み取ることができる。
イ 時間的な順序を表すことばを使って、事象の変化を適切に表現することができる。

4 指導計画 (全 15 時間)

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす ②	よく見たり、さわったりするたんぽぽだけれど、知らないこともおそうだな。	1～2 内容への興味の喚起と学習目標・計画の立案 1 「〇〇のちえを見つけて、しらべたことをみんなにはっぴょうしよう。」 ・たんぽぽの不思議発表・紙芝居モデルの鑑賞 ・教材の音読 ・初発の感想 ・単元の目標設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〇〇のちえをかみしばいにして、しらべたことをがっきゅうのみんなにしらせよう。</div>	○ 活動への興味・関心を高めさせるために、日頃感じたり、知っていたりするたんぽぽや生き物の不思議について発表させる。 ○ 紙芝居にまとめることよさを感じさせるために、教師が作成した紙芝居を提示する。 ○ 順序に気を付けて読むことを意識付けるために、挿絵を操作しながら、書かれている事象の順序をとらえさせる。 ○ 時間的な順序を表す言葉の必要性について考えさせるために、時間的な順序を表す言葉がある場合とない場合をと比較させる。 ○ すべての「ちえ」が、仲間を増やすためのちえであるというまとめの文に気付かせるために「このように」という言葉に着目させる。 ○ 読むことによって学んだ時間や様子を表す言葉、理由を示す表現等を実際に使うことができるようにするために、目的意識や相手意識を明確にもたせてから紙芝居作りをさせる。 ○ 学習したことを生かして紙芝居を作ることができたか振り返らせるために、ペアで交換し、読み合わせる。 ○ 自己の成長を実感できるようにするために、自己評価カードカードを用いてこれまでの自分との比較をさせる。
	いろいろな生きものちえについて、じぶんでもしらべてみたい。	2 「学習計画を立てよう。」	
しらべる ⑦	「たんぽぽのちえ」ってなんだろう。	3～9 「たんぽぽのちえ」の読み取り 3 「花がさいて 2,3 日たつと、たんぽぽはどうなるのだろうか。」 ・たんぽぽのちえ(1)の読み取り 4 「花がすっかりかれたあと、たんぽぽはどうなるのだろうか。」 ・たんぽぽのちえ(2)の読み取り 5 「なぜ、花のじくがまたおき上がるのだろうか。」 ・たんぽぽのちえ(3)の読み取り 6 「なぜ、わた毛は、ひらいたりすぼんだりするのだろうか。」 ・たんぽぽのちえ(4)の読み取り 7～9 紙芝居「たんぽぽのちえ」作成 『たんぽぽのちえ』のかみしばいをつくろう。 ・「たんぽぽのちえ」のまとめ ・紙芝居「たんぽぽのちえ」の発表	教材についての紙芝居作成
	まず、たんぽぽのちえのかみしばいをつくろう。	10～14 紙芝居「〇〇のちえ」作成 10～13 『〇〇のちえ』のかみしばいをつくらう ・資料収集と紙芝居の作成 ・順序を意識した表現の工夫 14 「じぶんが書いたかみしばい『〇〇のちえ』は、わかりやすいだろうか。」(本時) ・感想やアドバイスの伝え合い	
ふかめる ⑤	ちえって、生きていくためのくふうといういみなんだな。	15 紙芝居発表会 「かみしばい『〇〇のちえ』のはっぴょう会をしよう」 ・相互発表 ・自己評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〇〇のちえをかみしばいで学びゅうのみんなにしらせることができた。</div>	調べた植物のちえについての紙芝居作成
	〇〇にもたんぽぽとおなじようにちえがあるのかも。しらべてみんなに教えてあげたいな。		
ふりかえる・いかにす ①	生きものちえがいろいろわかった。これからもたくさんしらべてみたい。		

5 本 時(14/15)

(1) 目 標

友達の手紙について、よいところを見つけて感想を伝え合う活動を通して、順序を表すことばに気を付けたり、「それは～だからです。」という理由を説明する文末表現について考えたりすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

順序を表すことばに気を付けたり、理由を説明する文末表現について考えたりすることのよさに気付かせるために、お互いの紙芝居が分かりやすい理由について伝え合わせる。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	具 体 的 な 教 師 の 働 き かけ
つかむ・みとおす	1 前時までの学習を振り返り、学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> じぶんが書いたかみしばい「○○のちえ」は、わかりやすいだろうか。 </div>	5	○ 学習に主体的に取り組ませるために、前時までの紙芝居作りの学習を想起させ、本時の学習課題を設定させる。 ○ 学習の進め方について見通しをもたせるために、まず友達の手紙について、よいところを見つけ、それを基に感想を伝え合うことを確認させる。 ○ 観点を基にした伝え合いをさせるために、感想を書く際は順序を表す言葉や理由を表す言葉が書かれているかなどの観点に沿って書くようにさせる。 ○ 観点に沿ってよいところを見付けることの大切さに気付かせるために、自分が書いた紙芝居を読み直し、振り返らせる。
	2 学習の進め方を確かめる。 ・ となりのともだちとかみしばいをよみ合う。 ・ 分かりやすかったところを出し合う。		
しらべる	3 紙芝居「たんぼぼのちえ」を読んで、分かりやすい紙芝居になる観点を確認し、友達の作った紙芝居のアドバイスカードを書く。 (1) これまでどのようなことに気を付けながら紙芝居を書いてきたか振り返る。 <div style="margin: 5px;">  じかんがたったことがわかりやすいように、じゅんじょをあらわすことばや、りゆうをあらわすことばに気をつけるんだったな。 </div>	25	○ 順序を表す言葉や理由を表す文末表現に目を向けさせるために、それらの言葉がある場合とない場合の紙芝居を聞き比べさせる。 (個) 感想を書くことが困難な子どもには、観点に沿って書くことができていた友達のカードを参考にさせる。 ○ 友達との感想の伝え合いを基に、書いた紙芝居のよさに気付くことができた喜びを振り返らせるために、学習の楽しさを数値化させたり、その理由や自分が考えたことを書かせたりする。
	(2) 紙芝居を読み合い、よいところを見つけて感想をカードに書く。 <div style="margin: 5px;">  ○○にはこんなちえがあったんだね。はじめてだったよ。 </div> <div style="margin: 5px;">  「○○だからです。」としっかり書かれているからりゆうがよくわかったよ。 </div>		
ふかめる	4 カードを基に、感想を伝え合う。 <div style="margin: 5px;">  わたしのかみしばいは、とてもわかりやすかったんだな。うれしい。また書きたいな。 </div>	10	○ 観点をもって感想を伝え合うことよさに気付かせるために、紙芝居のよさについて理由付けて伝え合えたことを価値付け、賞賛する。
ふりかえる・いかす	5 本時のまとめをし、自己評価をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> じゅんじょをあらわすことばや、りゆうをあらわすことばが、きちんと書かれていたからわかりやすかった。 </div>	5	